

キャンパス名	千葉キャンパス				
授業番号	10581003				
授業名	経済構造と経済政策 B	形態	講義	単位	2
担当教員	松村 俊英				
開講学期	2019年度 後学期	曜日・時限	水曜3限		
授業目的	本講義では、経済構造・経済政策に関する基本的な知識や理論を学習することにより、現実の経済政策を分析するための道具を身につけることを目的とする。同時に、新聞記事等により、現実の経済政策について触れ、政策に対する評価を行うことができるようにすることを目的とする。				
授業内容	本講義は、我が国の経済政策（主に経済成長政策、金融政策、財政政策、再分配政策）における目的と手段の体系を学ぶ。基本的な経済理論や知識を習得したうえで、現実の経済政策の実践的な課題について学ぶ。				
到達目標	本講義の到達目標は、以下の2点とする。 ①経済新聞等の経済政策に関する記事を理解できる。 ②その上で、経済政策に関して批判的に検討し、自分の意見を言うことができる。				
ディプロマポリシーとの関連性	<DP1-(4)> 人間・文化・社会・国際事情あるいは自然等について幅広い知識と理解を有している。				
授業形態	講義形式を主体として行うが、必要に応じてグループワークを行うことがある。 事前学習と事後学習の成果は、ノートを一冊用意すること。 このノートは学期末に提出を求める。				
事前・事後学習の所要時間	講義時間30時間（2時間×1コマ×15週）＋事前事後60時間（第1～15回目授業までの総合計）				
テキスト	指定テキスト： 川本明・矢尾板俊平・小林慶一郎・中里透・野坂美穂[2016]『世の中の見え方がガラッと変わる経済学入門』、PHP研究所 を使用する。 指定テキストは、毎回の授業に持参のこと。 その他、講師が用意した資料、新聞・雑誌記事等を併用する。				
評価方法	①授業内容に関するリアクションペーパー、②レポート（事前事後学習）、③期末の確認テスト、をもとに総合的に判断する。				
評価基準	①授業内容に関するリアクションペーパー：20点 ②レポート（事前事後学習）：40点 ③期末確認テスト：40点 合計：100点				
試験・レポート等のフィードバック	各授業回で提出されたレポートについては、次の授業回で講評・解説を行う。				
注意事項及び履修条件	履修に際して必要な取得済科目はないが、普段から新聞等で経済に関する記事を読んでおくことが望ましい。				

S：100～90、A：89～80、B：79～70、C：69～60、D：60未満

第1回	
事前学習	日本経済について学びたいこと、本科目を履修する目的、授業への期待や要望を整理しておくこと。
授業内容	イントロダクション：本講義の内容、および、進め方の説明。 日本経済の全体像について説明する。
事後学習	授業内で説明した用語や概念について、分からなかった点を整理しておくこと。
参考文献	指定テキスト。

第2回	
事前学習	テキストの該当箇所を読み、意味の分からない用語などを調べておくこと。
授業内容	「第1章 価格の自動調整機能とその意味」（前半） ミクロ経済学の基本-家計・企業・政府の役割、需要と供給の関係、市場の機能について学習する。
事後学習	授業内容を各自振り返り、理解できなかった用語の意味を自分で調べ、その内容をノートにまとめておくこと。
参考文献	指定テキスト。

第3回	
事前学習	テキストの該当箇所を読み、意味の分からない用語などを調べておくこと。
授業内容	「第1章 価格の自動調整機能とその意味」（後半） ミクロ経済学の基本-家計・企業・政府の役割、需要と供給の関係、市場の機能について学習する。
事後学習	授業内容を各自振り返り、理解できなかった用語の意味を自分で調べ、その内容をノートにまとめておくこと。
参考文献	指定テキスト。

第4回	
事前学習	テキストの該当箇所を読み、意味の分からない用語などを調べておくこと。
授業内容	「第2章 市場の機能不全」 市場が機能する前提条件、市場の失敗、外部性、公共財などについて学ぶ。
事後学習	授業内容を各自振り返り、理解できなかった用語の意味を自分で調べ、その内容をノートにまとめておくこと。
参考文献	指定テキスト。

第5回	
事前学習	テキストの該当箇所を読み、意味の分からない用語などを調べておくこと。
授業内容	「第3章 経済の体調管理①—財政政策、国民所得の決定」 (前半) 財政政策、政府と中央銀行のマクロ経済政策、GDP (実質・名目) 需要 (消費、投資、政府支出) について学ぶ。
事後学習	授業内容を各自振り返り、理解できなかった用語の意味を自分で調べ、その内容をノートにまとめておくこと。
参考文献	指定テキスト。

第6回	
事前学習	テキストの該当箇所を読み、意味の分からない用語などを調べておくこと。
授業内容	「第3章 経済の体調管理①—財政政策、国民所得の決定」 (後半) 財政政策、政府と中央銀行のマクロ経済政策、GDP (実質・名目) 需要 (消費、投資、政府支出) について学ぶ。
事後学習	授業内容を各自振り返り、理解できなかった用語の意味を自分で調べ、その内容をノートにまとめておくこと。
参考文献	指定テキスト。

第7回	
事前学習	テキストの該当箇所を読み、意味の分からない用語などを調べておくこと。
授業内容	「第4章 経済の体調管理②—金融政策、金利・物価の影響」 (前半) 貨幣市場と中央銀行の金融政策、IS-LM モデル等について学ぶ。
事後学習	授業内容を各自振り返り、理解できなかった用語の意味を自分で調べ、その内容をノートにまとめておくこと。
参考文献	指定テキスト。

第8回	
事前学習	テキストの該当箇所を読み、意味の分からない用語などを調べておくこと。
授業内容	「第4章 経済の体調管理②—金融政策、金利・物価の影響」 (後半) IS-LM モデルの復習と物価変動と財政・金融政策について学ぶ。
事後学習	授業内容を各自振り返り、理解できなかった用語の意味を自分で調べ、その内容をノートにまとめておくこと。
参考文献	指定テキスト。

第9回	
事前学習	テキストの該当箇所を読み、意味の分からない用語などを調べておくこと。
授業内容	「第5章 経済の基礎体力を高める—経済成長のメカニズム」 経済成長、生産性、規制改革について学ぶ。
事後学習	授業内容を各自振り返り、理解できなかった用語の意味を自分で調べ、その内容をノートにまとめておくこと。
参考文献	指定テキスト。

第10回	
事前学習	テキストの該当箇所を読み、意味の分からない用語などを調べておくこと。
授業内容	「第6章 国の借金と財政再建」 日本の財政の問題点、持続可能性、財政再建ができないと何が起きるのか、について学ぶ。
事後学習	授業内容を各自振り返り、理解できなかった用語の意味を自分で調べ、その内容をノートにまとめておくこと。
参考文献	指定テキスト。

第11回	
事前学習	テキストの該当箇所を読み、意味の分からない用語などを調べておくこと。
授業内容	「第7章 少子化・高齢化と社会保障」 人口減少・少子高齢化が経済に与える影響、公的年金制度の課題等について学ぶ。
事後学習	授業内容を各自振り返り、理解できなかった用語の意味を自分で調べ、その内容をノートにまとめておくこと。
参考文献	指定テキスト。

第12回	
事前学習	テキストの該当箇所を読み、意味の分からない用語などを調べておくこと。
授業内容	「第8章 地方創生と規制改革」 地方経済を強くするための方策について考える。
事後学習	授業内容を各自振り返り、理解できなかった用語の意味を自分で調べ、その内容をノートにまとめておくこと。
参考文献	指定テキスト。

第13回	
事前学習	テキストの該当箇所を読み、意味の分からない用語などを調べておくこと。
授業内容	「第9章 消費増税、T P P、成長戦略」 現在、日本で講じられている主な経済政策について考える。
事後学習	授業内容を各自振り返り、理解できなかった用語の意味を自分で調べ、その内容をノートにまとめておくこと。
参考文献	指定テキスト。

第14回	
事前学習	これまでの授業内容を振り返り、ノートをまとめること。
授業内容	第14回目では、これまでの授業内容を、受講生がどの程度理解できているか、到達目標に達成しているかについて確認テストを実施する。
事後学習	到達目標に向けて、まだ達成していない点を確認し、理解を深めるために授業内で示すチェックポイントに基づき、ノートにまとめること。
参考文献	指定テキスト。

第15回	
事前学習	「本授業を通じて、自分が学んだこと」について、ノートにまとめること。
授業内容	第15回目では、本授業の内容をまとめ、振り返りを行う。
事後学習	「経済政策とは何か」について、授業を通じて考えたことをノートにまとめること。
参考文献	指定テキスト。

※この他に試験が実施される場合があります。担当教員の指示に従ってください。

ディプロマポリシー	<p>&lt;DP-1&gt; 【社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】 社会生活で必要となる汎用的技能及び社会の一員として求められる態度や志向性を身に付けているとともに、人類の文化、社会と自然に関する知識について理解している。</p> <p>&lt;DP1-(1)&gt; 日本語及び外国語によるコミュニケーション能力を身に付けている。</p> <p>&lt;DP1-(2)&gt; 情報通信機器の活用に関する知識・技能を持ち、利用における法令順守の態度を身に付けている。</p> <p>&lt;DP1-(3)&gt; 問題を発見し、課題を解決する能力を持ち、立案・実行過程で主体性を持って協働できる態度を身に付けている。</p> <p>&lt;DP1-(4)&gt; 人間・文化・社会・国際事情あるいは自然等について幅広い知識と理解を有している。</p>
-----------	--